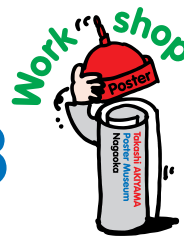


Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2016-01-29

APM 秋山孝ポスター美術館 長岡
歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

Workshop news 008



第8回APMワークショップ

画家になりきって 家族の肖像画を描いてみよう

6月27日(土) pm1:00~3:00/会場:APM/参加者:6名/講師:たかだみつみ/スタッフ:すずめ隊4名

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233
<http://apm-nagaoka.com>



肖像画とは？

昔から画家たちは多くの肖像画を描いてきました。肖像画は、人の顔や姿を描いたものです。写真が無かった時代の貴族や政治家など歴史上の人物の姿は、肖像画で知ることができます。有名な絵画では、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「モナリザ」やフェルメール作「真珠の耳飾りの少女」も肖像画です。日本の作品では、江戸時代の絵師・写楽の描いた役者絵も肖像画といえます。身近なものでは、現在の紙幣に印刷されている福沢諭吉、樋口一葉、野口英世の顔も肖像画です。全ての作品に共通していることは、モデルの特徴をとらえ、見た目だけでなく、性格や時代背景までも表現されているということです。

今回のワークショップは、見慣れた家族の顔を改めてじっくりと観察して、画家になりきって肖像画を描いてみました。

じっくりと観察しよう

肖像画を描くためには、まずモデルをしっかりと観察する事が重要です。今回のモデルは、家族です。参加者の希望で、親子で描き合うという形となりました。向かい合って座り、見つめあって観察しました。輪郭の形、鼻の高さ、目と目の間の長さ…などなど。毎日見ている顔ですが、改めてじっくりと見てみると、知らなかった発見があるはずです。見るだけでなく、実際にお互いに顔を触り合って自分の顔との違いを探りながら、観察しました。

実際に描いてみる

観察でモデルのことを理解した後は、いよいよ肖像画を描きます。B3サイズのイラストボードにアクリル絵の具、クレヨン、鉛筆など用意した様々な種類の画材から各自好きな物を選びました。中には複数の画材を併用する参加者もいました。作業中も描

く相手のことを観察しながら描くことを心がけてもらいました。

お披露目

描き終わったら、お披露目です。お互いに作品を見せ合い、感想を述べ合いました。作業前に相手の事を観察しましたが、今度は他者に描かれた自分の肖像画を通して、自分を客観的にみることが出来ます。そこには、知らなかった自分の姿があるかもしれません。肖像画を描き合うという事は、絵を描く作業だけではなく、相手を知ると同時に自分を知るというコミュニケーションが発生するということがわかりました。

肖像画はぜひ保存しておいてください。数年後に再び肖像画を描き合っ、過去の作品と並べて見てみましょう。新たな発見があるはずです。そしてそれは、家族の大切な記録となります。(たかだみつみ・APM学芸員)

<材料・道具>

・イラストボード ・アクリルガッシュ ・クレヨン ・鉛筆 ・筆 ・ペーパーパレット ・筆洗バケツ ・タオル ・ビニール袋